かやっ子

与謝野町立加悦小学校　研究推進委員会
令和２年７月１４日号

自ら考え、かかわり、挑戦する児童の育成
～言葉を通した確かな学び～

今年度は、「読むこと」に焦点を当てた研究をしていきます。「主体性を育てたい」「チャレンジする姿を応援したい」「文章を読んで理解する力を高めたい」「やっぱり自らかかわる力が大事」などの思いから、研究テーマを設定しました。「言葉」をキーワードに、読む力の育成を中心とした学力向上を目指していきたいと思います。

「つながり」を感じよう！

前回の研修を受け、１・２年生では、遊びを通して友達とつながり、考えや思いを伝える力を付けよう、というねらいのもと、「１・２年生つながり遊び」に取り組み始めました。

２年生は、「みんなが仲良く遊べるように」「みんなが楽しく遊ぶためにどんなルールが必要か」など、様々に考え、計画を立てました。初めてのことで緊張もしたと思いますが、１年生と一緒に楽しく遊ぶことができました。最後には感想を伝える場も設け、思いを伝え受け取ることができました。

「また遊びたい！」という１年生の声に、２年生の表情もほころんでいました。

ハンカチ落とし

１年生からは、「楽しかった」などの感想と、「次はだるまさんがころんだがしたい」というリクエスト、「ありがとう」の言葉をもらいました。１・２年がつながったひとときでした。

本校では、「『かやっ子』学びのてびき」として、学習に必要な持ち物や学習の仕方、家庭学習の仕方等をまとめた冊子を児童に配布し、指導を行っています。この冊子は学校保管をしているため、学級懇談会等でご一読いただければと思います。

この冊子の最後には、家庭教育にもふれています。以下に載せていますので子育ての参考にしてください。

※この「『かやっ子』学びのてびき」は、平成２２年度発行の与謝野町学力対策会議「学びのきほん」を参考に作成しています。

４　家庭では～家庭の機能～

☆親〈保護者〉こそは・・・

人生　最初の　教師

教育という川の流れの最初の水源の一滴となり得るのは家庭教育です。学齢期までの子どものしつけは父母の責任であり、同時に親にしか味わえない深い喜びでもあります。小学校に入る前から、人間としての基礎的な訓練を大切にし、温かい人間関係をもとにして「やさしさ」だけでなく「きびしさ」も踏まえながらしなやかに育てたいものです。

子ども時代のしつけは
一生のしあわせづくり

おとなになれば自然にできるだろう、そのうち身に付くだろう・・・は間違いです。

例えば・・・おとなになっていても、きちんと「あいさつ」のできない人って、いますね。実際、あいさつだけでなく「言葉づかい」とか「食事の仕方」とか「後始末や整理能力」、「時間や約束への対応」など、様々な生活場面において、たとえ、おとなになっていてもうまく身に付いていないことって案外多いものです。このような人間としての基礎の部分、つまり基本的な生活習慣や学習態度の大部分は、“子ども時代のしつけ”を通して培われる中身です。子ども時代に、よいしつけを身に付けた子どもは、自分の人生をしあわせなものにしていくための“心強い味方”を得たのと同じなのです。

家庭（家族）とは、代わりのきかない特別な生活共同体

家庭の基本的な機能は2つあり、1つは《生命をはぐくみ、健康と生活を守る機能》もう1つは《家族のきずなをもとに、愛情や安らぎを得て安定を図る機能》です。この2つの機能を家族以外に求めることは、一般的にむずかしいと考えられます。私たちにとって、家族こそは本当に、他に代用のきかない特別な存在ということが言えます。

子どもがいるから頑張れること
子どもがいるから楽しめること
子どもがいるから感動すること

子どもと共に、あせらず、親としての喜びや楽しさを味わいたいもの。
ほめて、いとしんで、時には叱って、教えて、良い子にしましょう！

しつけ3原則

～その１～　チャンスを見逃すな
しつけにはしつけのテーマに適した時期というものがある。子どもの“適時性”（＝受け入れ能力）をよく見ること。

～その２～　その気にさせよ
好きになればどんどん伸びる。時には親自身もやって見せ、そのよさを自覚し体感できるような動機付けをすること。

～その３～　続けろ
継続は力、やればできる体験を増やし、努力した後の喜びを知ること。